

授 業 科 目 名		情 報 処 理 基 礎	担 当 教 員	松 田 芳 健	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		講義概要			
2		コンピュータの起動、終了 基本操作			
3		文字入力、ファイル管理			
4		ネットワークの利用			
5		文書作成 1 基本			
6		文書作成 2 入力アシスト機能の活用			
7		文書作成 3 文書の構成			
8		文書編集 1 文書編集機能の基礎			
9		文書編集 2 レイアウト編集			
10		文書管理のしかた、形式の変換			
11		表の作成と利用			
12		図の作成と利用			
13		他ソフトとの連携の基礎			
14		印刷の方法			
15		予備日			
テキスト、参考書					

授 業 科 目 名		情 報 処 理 基 礎 演 習	担 当 教 員	松 田 芳 健	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期 集 中	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		講義概要			
2		表計算ソフトの基本操作			
3		ワークシートの作成とデータの入力			
4		レイアウトの変更、セルの操作			
5		計算式の入力			
6		関数の概要と利用の基本			
7		関数の利用 1 算術関数			
8		関数の利用 2 統計関数			
9		関数の利用 3 日付関数			
10		関数の利用 4 論理関数			
11		絶対参照と相対参照			
12		グラフの作成と利用			
13		ワークシート、ブックの利用			
14		データベース機能の利用			
15		予備日			
テキスト、参考書					

授 業 科 目 名	生 物 科 学	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		講義概説	
2		細胞とは、細胞小器官(1)	
3		細胞小器官(2)	
4		細胞小器官(3)	
5		細胞小器官(4)	
6		分化した細胞(1)	
7		分化した細胞(2)	
8		生体内の化学反応、酵素	
9		遺伝子の働き(1)	
10		遺伝子の働き(2)	
11		遺伝子の働き(3)	
12		遺伝子の働き(4)	
13		分子生物学と医療(1)	
14		分子生物学と医療(2)	
15		試験	
	テキスト、参考書	テキスト:「はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学」前野正夫他著(羊土社) 「好きになる分子生物学」萩原清文著(講談社)	

授 業 科 目 名		生 化 学	担 当 教 員	澤 田 只 夫	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
		生化学の項目を別々に覚えるのではなく、一人の患者さんを診るときのように、総合的に他の科目とお互いに関連付けて学ぶよう心がけよう。			
1	生体分子と細胞	生体の成り立ち / 個体、器官、組織、細胞 / 細胞内小器官の機能 / 細胞分画法 / 生体を構成する物質 / 代謝 生体で起きている化学反応			
2	タンパク質の性質	タンパク質の分類 / タンパク質を構成しているアミノ酸は L - a - アミノ酸である / タンパク質を構成しているアミノ酸の種類 / アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している / タンパク質の高次構造 / タンパク質は変性し、機能を失う / 血漿タンパク質			
3	酵素の性質と働き	酵素とは / 酵素の特性 / 酵素の種類 / アイソエンザイム / 血清酵素の診断への利用			
4	生体内における糖質の代謝	糖とは何か / 糖の分類 / 糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である / グルコースとグリコーゲンの合成 / 血糖の調節 / 糖尿病			
5	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質 / 脂質の代謝 / リポタンパク質と脂質代謝異常			
6	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応 / 脱炭酸反応 / 尿素回路 / 糖新生 / エネルギー代謝 / 分枝鎖アミノ酸の代謝 / 含硫アミノ酸の代謝 / オキシアミノ酸の代謝 / 芳香族アミノ酸の代謝 / アミノ酸の先天性代謝異常症 / 主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動			
7	生体内における核酸の役割	核酸の所在 / 2 種類の核酸と構造核酸はコピーされる / タンパク質を作るための核酸 / いらなくなった核酸の処分 / 核酸の仲間 / 遺伝病の犯人は？ / 遺伝子操作のもたらす世界			
8	Midterm Exam				
9	体 液	水 / 体液の電解質 / 酸・塩基平衡			
10	ホルモン	ホルモンのあらまし / ホルモンの種類 / ホルモン作用の発現様式 / ホルモン分泌のフィードバック調節 / 各種のホルモン / ホルモン関連物質 (メラトニン、レニン、プロスタグランジン) / 内分泌疾患			
11	ビタミン	水溶性ビタミン / 脂溶性ビタミン			
12	内部環境の恒常性 ホメオスターシス	精神性調節 / 神経性調節 / ホルモン性調節 / 膜透過性の変化 / 酵素による代謝調節 / フィードバック調節			
13	消化・吸収と栄養価	体に必要な栄養素とは / 栄養素と食品・食品成分表 / 食品の摂取・消化・吸収 / 食品中のエネルギー量 / 体の消費するエネルギー量 / 必要な栄養素の量と質 / 食生活・厚生省の指針 / 特定保健用食品(機能性食品)			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
14	血液 / 尿	血液の成分とそのはたらき / 止血機構 / 血液型 腎臓の構造 / ろ過のしくみ / 尿生成の体液性調節 / 尿の性状と成分 / 腎機能検査	
15	免疫 生体防御 各臓器の役割	抗原 / 抗体 / 抗体の働き / 免疫グロブリンの種類(クラス) / 体液性免疫と細胞性免疫 / 免疫担当細胞 アレルギー エイズ AIDS 後天性免疫不全症候群 運動系(筋肉) / 筋肉の構造と収縮 / 筋肉運動のエネルギー源 / 筋肉運動における代謝 / 筋疾患 消化器系(肝臓、小腸) ~ 総まとめ ~	
テキスト、参考書		テキスト: 「わかりやすい生化学 疾病と代謝・栄養学の理解のために(第3版)」 石黒伊三雄(廣川書店) 「わかりやすい生化学整理ノート」篠原力雄(Nouvelle HIROKAWA)	

授 業 科 目 名		医 用 物 理 学	担 当 教 員	武 田 淳 史	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	オリエンテーション	講義内容の全体像について説明 看護人間工学と医用工学について			
2	人工臓器	人工臓器の現状と将来について			
3	看護人間工学	看護人間工学とは			
4	医療器械	運動支援システム、通信システムについて			
5	力学	理学、看護に役立つ介護動作について			
6	人工透析	人工透析の原理と応用			
7	熱	熱伝導、対流理論とその応用			
8	エネルギー	人間のエネルギー代謝			
9	心電図	心臓の刺激伝導系、活動電位と原理			
10	聴診器	聴覚と聴診器について			
11	医療事故(1)	医療機器の基本構成と取扱について			
12	医療事故(2)	機器の安全確保について			
13	実習 A	室内の温度・湿度ムラ調査			
14	実習 B	ドアの開閉と取っ手の高さの調査			
15	実習 C	皮膚温度、インピーダンス測定			
テキスト、参考書		テキスト:「系統看護学講座 物理学」青木和夫(医学書院)			

授 業 科 目 名		心 理 学	担 当 教 員	北 川 公 路	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)		選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	医療と心理学	心理学とは何か 医療と心理学、心理学の関連領域			
2	心理学の諸理論	心理学の起源 精神分析理論 行動理論、認知理論			
3	学習	条件づけ 認知学習			
4	記憶	短期記憶と長期記憶 記憶障害			
5	感覚と知覚	五感のはたらき			
6	情動	情動 感情の機能			
7	動機づけ	動機づけ 動機づけの種類			
8	社会心理学	社会的認知 人間関係			
9	ストレス	ストレスとは何か ストレスの心理生物学的影響			
10	パーソナリティと	パーソナリティの諸理論			
~	自己理解	パーソナリティの形成			
11		性格検査			
12	知能	知能、知能検査 知能の発達と障害			
13	こころの発達	発達諸理論 親子関係の発達、生涯発達心理学			
14	臨床心理学と	臨床心理学			
~	心理療法	心理療法			
15		カウンセリング			
テキスト、参考書		テキスト:「医療の行動学 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー」 山田富美雄(北大路書房)			

授 業 科 目 名	法 学	担 当 教 員	内 藤 和 美	
対 象 学 生	1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
1	世界の保健医療と福祉(1)	人間の社会と生活から世界の保健医療と福祉のかかわりをみて	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	
2	世界の保健医療と福祉(1)	世界の国々の社会、経済発展と保健医療と福祉問題とその対応について	3. 保健医療福祉制度と関係法規	
3	世界の保健医療と福祉(1)	世界諸国の暮らしにみる「古典的貧困原因」と「現代的貧困原因」	A 保健医療福祉のしくみと資源	
4	世界の保健医療と福祉(1)	世界の国々にみる、人間の「生存、生活の権利」とその公的生活保障システムの展開		
5	法規	法規の概念、法規の種類、衛生法規	E 関係法規	
6	医事法規(1)	医療法	a1) 医療法	
7	医事法規(2)	医療法		
8	医事法規(3)	保健師助産師看護師法		
9	医事法規(4)	保健師助産師看護師法		
10	医事法規(5)	理学療法士及び作業療法士法	E 関係法規	
11	医事法規(6)	医師法		
12	薬事法規	薬事法		
13	保健衛生法規(1)	地域保健法、母子保健法、老人保健法	b 保健衛生法規	
14	保健衛生法規(2)	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	1) 地域保健法 2) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
15	福祉関係法規	障害者基本法、身体障害者法、知的障害者法	3) 老人保健法 c. 福祉関係法規	
テキスト、参考書		プリントによる 参考書：「健康政策六法 最新年度版」 医療法制研究会(中央法規) 「社会福祉六法 最新年度版」 社会福祉法規研究会監修(新日本法規)		

授 業 科 目 名	社 会 学	担 当 教 員	内 藤 和 美
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	具体的問題に即して	社会学とは、刑事裁判の話	
2	具体的問題に即して	ハンセン訴訟について	
3	具体的問題に即して	男女問題（婚姻制度）1	
4	具体的問題に即して	男女問題（婚姻制度）2	
5	具体的問題に即して	医療の問題 1	
6	具体的問題に即して	医療の問題 2	
7	ケア	ケアとはどういうことか 他者のケアを役割にすることが孕む一面のリスク リスクを回避するには	
8	「家族」をとらえる	「家族」の概念 現代家族の特徴 家族と世帯 国際家族年に示された家族の理念 世帯の動向 多様化 個人化 私事化	
9	「家族」の機能	生活保障 感情機能	
10	「家族」機能の破綻とその解決援助	こども虐待 - どういう問題か、1つの調査結果から、解決援助：自己肯定感情とネットワーク	
11	「家族」機能の破綻とその解決援助	ドメスティックバイオレンス - どういう問題か、調査結果に見る実態と「問題の本質」、総合的対策の必要	
12	ジェンダー	戦後日本社会は「性別」についてどのような慣習や通念を組み込んできたか - 二重の悪循環	
13	ジェンダー	戦後日本社会は「性別」についてどのような慣習や通念を組み込んできたか - 二重の悪循環	
14	ジェンダー	二重の悪循環を乗り越え、ジェンダーバイアスを乗り越え・・・これからの社会は	
15	ジェンダー	セクシュアル・ハラスメント	
	試験		
	テキスト、参考書	プリントによる 参考書：「21世紀家族へ<新版>」 落合恵美子(有斐閣選書)	

授 業 科 目 名		教 育 学	担 当 教 員	平 形 作 太 郎	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	オリエンテーション	使用教材(教科書・参考書)・使用用具 講義題目と教科内容・時間割・教育方法・評価方法			
2	教育の本質	教育の多義的性格・教育の概念			
	1 教育の概念	遺伝説・環境説・輻輳説			
	2 遺伝と環境	発達、成熟と学習、成熟の適時性、適時性と学習			
	3 成熟と学習	成熟・学習・教育			
3	4 社会と人間形成	人間形成の場としての社会、家庭・地域社会・仲間集団と人間形成			
	5 生涯学習	自己学習による知識・技能の習得、学び方の学習			
	6 教授と学習	教授 = 学習の process			
4	教育の目的	教育目的の基本的意義と性格 教育目的の類型			
	1 教育目的の基本的意義	社会を反映する教育目的 今日の視点での教育目的			
5	2 社会を反映する教育目的	学校教育の目的と課題			
6	3 学校教育の目的	教育基本法・学校教育法の教育目的 教育目的の今日的課題			
	4 教育目的の現代的課題	教育課程の意味 教育内容の選択と配列			
7	教育の内容	内容構成の観点からの類型 教科間の観点からの類型			
	1 教育課程の意味	編成の国家基準 高等教育の本質・目的・内容			
8	3 教育課程の編成	教育課程の評価、教育課程評価と授業評価、			
9	4 教育課程の評価	学校としての教育課程の評価			
10	教育の方法	個別教育から集団学習へ、教授方法の改善、			
	1 教育方法の近代化	学習指導の個性化と社会化			
	2 学習指導	学習指導の意義、学習指導の原理			
11	3 学習指導の過程	学習指導過程、代表的な学習指導方式の過程(系統学習・問題解決学習・プログラム学習・発見学習)			
12	4 学習方法の新しい試み	ティームティーチング、視聴覚利用コンピュータ利用			
	5 生活指導	生活指導、職業指導、社会的・道徳的指導			
	教育の評価	教育評価の意義 指導資料、教育者の反省、教育管理			
13	1 教育評価	評価の目標と用具、評価資料の処理と解釈			
	2 教育評価の目的	教育の現代的課題			
14	3 教育評価の目標	proposal を書く、発表、publish or perish			
	4 教育者評価				
15	5 成果の記録				
テキスト、参考書		テキスト:「新現代教育原理」宮崎和夫、上野恭裕、米谷光弘編著(学文社) 「新版看護学全書基礎科目 教育学」著者代表長尾十三二(メジカルフレンド社)			

授業科目名		健康科学	担当教員	栗田昌裕	
対象学生		1 学年	学 期	後 期	
単位 (コマ数)		2 単位 (15 コマ)	選 択	講義室	
回	講義題目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	健康科学とは	医学・保健学とのかかわり、病気と健康の定義、生活と健康科学、健康科学の目指すもの		健康・疾病の概念	
2	加齢の統御のメカニズム	細胞の加齢変化、発生と加齢変化の実例：神経系、心循環系		加齢による病態生理変化	
3	生命活動の周期性	細胞増殖のバイオリズム、神経系のバイオリズム、生体リズムと体内時計、防御・免疫系のバイオリズム		細胞生理	
4	胎生期と周産期の健康科学	卵子・精子の成熟、胎児の発育、胎児・胎盤・母体の相互作用		小児の発達	
5	乳幼児期の健康科学 1	運動機能の発達、粗大運動と微細運動、発達の個人差、運動発達に影響する因子、運動の上手下手、利き手		発達段階、身体発達	
6	乳幼児期の健康科学 2	教育・訓練の最適期と臨界期、脳の発育と視覚・聴覚の臨界期、将来の予測と育児の遠隔効果		発達段階、身体発達	
7	少年期・青年期の健康科学 1	発育加速現象、成長期の発育、成長期の諸問題、発育の地域差と年次推移、体を鍛える意味、筋・骨格・呼吸・循環器にみる鍛錬の影響、運動適応能力の個人差		青年期の発達、運動生理	
8	成人期・壮年期の健康科学 2	安静の生理学、安静の功罪、座席に座るときの反応、ストレスと生体反応、ストレスの概念、ストレスと副腎、その他のホルモンのストレス反応		廃用症候群、内分泌、運動生理、ストレス関連障害	
9	成人期・壮年期の健康科学 3	運動と生体反応、運動ということ、運動を担う骨格筋、酸素負債、運動強度、日常における生体反応：肥満、生活様式と健康、喫煙、アルコール		運動生理、運動における生体の生理的变化	
10	成人期・壮年期の健康科学 4	高次大脳機能、大脳半球の局在、左半球の優位性、パターン認識、生活活動と脳。脳機能の性差、睡眠のメカニズム、睡眠段階、睡眠時間、睡眠中の身体変化		脳・神経の構造と生理	
11	成人期・壮年期の健康科学 5	入浴と生体反応：体温、呼吸・循環器、血液、内分泌器官、消化器、運動器、自律神経 疲労と生体反応：疲労とは、疲労時の自覚症状、メカニズム、対策		運動生理、温熱療法、水治療法	
12	成人期・壮年期の健康科学 6	肥満の生理学：肥満とは、原因、身体へ及ぼす影響、喫煙と生体反応、喫煙の歴史、シガレット煙の成分、吸い方の問題、ニコチンの吸収と体内分布、肺・心・血管系・妊婦・胎児・新生児への影響		生活習慣病	
13	成人期・壮年期の健康科学 7	アルコールと生体反応、吸収と分布、アルコール依存と臓器障害、外傷と生体反応、外傷とは、局所反応、全身的反応、薬と生体反応		外傷と骨折、創傷治癒	
14	老年期の健康科学 1	老化とは、老化の諸学説、老年期の体の特徴、加齢と免疫機能、老年者の病気の特徴		加齢による病態生理変化	
15	老年期の健康科学 2	老年期に見られる生体反応と変化のメカニズム、皮膚、爪、視野の狭窄、骨折、息切れ、難聴、手足のしびれ感、むくみ、老人の貧血		老年期	
テキスト、参考書		テキスト：「健康科学」 本間日臣、古谷 博、丸井英二編集(医学書院)			

授 業 科 目 名		栄 養 学	担 当 教 員	後 藤 香 織	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	栄養学とは	地球上で必要なエネルギーとは？代謝とは？			
2	代謝と栄養	糖代謝			
3	"	脂質代謝			
4	"	アミノ酸代謝			
5	"	タンパク質合成			
6	"	セントラルドグマ			
7	病気と栄養	電解質代謝、ビタミン、ミネラル			
8	"	栄養所要量の計算、消化器疾患()			
9	"	消化器疾患()			
10	"	消化器疾患()			
11	"	腎疾患()			
12	"	腎疾患()			
13	"	内分泌、代謝疾患()			
14	"	内分泌、代謝疾患()、循環器疾患			
15	まとめ	血液、感染症、アレルギー、骨、関節疾患 演習 他			
テキスト、参考書		テキスト：「新鮮食品成分表」(実教出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編 (日本糖尿病協会・文光堂)			

授 業 科 目 名	英 語	担 当 教 員	川 口 恵 子
対 象 学 生	1 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	授業の説明	
2	Aging Population	高齢者像の変化に関する英文を読む	
3	The Gold Plan	介護保険制度に関する英文を読む	
4	Depression	高齢者介護に心のケアの重要性を説く英文を読む	
5	Danger Signs	心の健康状態を見分けることに関する英文を読む	
6	For Children Only	チャイルド・ライフ・スペシャリストとは何か	
7	Review	前半の復習と応用	
8	The Power of Music	音楽療法に関する英文を読む	
9	Assisted Living	高齢者や障害者の自立に関する英文を読む	
10	Bedside Manner	医療の場でのコミュニケーションに関する英文を読む	
11	Euthanasia	安楽死に関する英文を読む	
12	Euthanasia	安楽死に関する議論を試みる	
13	Aging Society	高齢化社会への対応に関する英文を読む	
14	Future Plan	自分の将来を考えて社会とのかかわりを考える	
15	Examination	期末試験	
テキスト、参考書		テキスト:「Tender loving Care」 宮崎路子(南雲堂)	

授 業 科 目 名	英 語	担 当 教 員	川 口 恵 子
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	Introduction	授業の説明	
2	Breast is Best	母乳の効能に関する英文を読む	
3	Designer Foods	健康食品に関する英文を読む	
4	How to Treat Acne	ニキビや皮膚疾患に関する英文を読む	
5	Cancer and Culture	ガンと文化の相関関係に関する英文を読む	
6	Overcoming		
7	Depression	うつ病に関する英文を読む	
8	Bald Spots	頭の禿と心臓病の相関関係に関する英文を読む	
9	Myth about Food	食品に関する迷信を破ろうという英文を読む	
10	Getting a Tan	日焼けの功罪に関する英文を読む	
	Alcoholic	アルコール中毒に関する英文を読む	
11	Exercises	運動と健康に関する英文を読む	
12	Healthy Dining Out	食生活と健康に関する英文を読む	
13	Safer Sleep	睡眠の重要性に関する英文を読む	
14	Smart Drugs	頭をよくする薬に関する英文を読む	
15	Examination	期末試験	
テキスト、参考書		テキスト: 「A Shorter Course in Healthy Living」 瀬谷 幸男(南雲堂) 「20 Health-care Dialogs」 古閑 博美(弓書房)	

授 業 科 目 名		体 育	担 当 教 員	近 藤 照 彦	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	体育 について (実験室)	講義概要解説、健康手帳の意義と実際について 身体活動の意義と実際について			
2	体力テスト (実験室)	最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
3	体力テスト	最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
4	体力テスト	最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
5	スポーツ大会練習	ソフトボール・サッカー・大縄跳び			
6	選択スポーツ	レクリエーション系・スポーツ系を選択			
7	選択スポーツ	同上			
8	選択スポーツ	同上			
9	選択スポーツ	同上			
10	選択スポーツ	同上			
11	選択スポーツ	同上			
12	選択スポーツ	同上			
13	選択スポーツ	同上			
14	選択スポーツ	同上			
15	予備日				
テキスト、参考書		特になし、運動のできる服装にて参加のこと			

授 業 科 目 名		体 育	担 当 教 員	近 藤 照 彦	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	体育 について 体力テスト	講義概要説明(実験室) 最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
2	体力テスト	最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
3	体力テスト	最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
4	体力テスト	最大酸素摂取量・下肢筋力・体脂肪・形態			
5	スポーツ大会練習	ソフトボール・サッカー・大縄跳び(グラウンド・体育館)			
6	選択スポーツ	レクリエーション系・スポーツ系を選択			
7	選択スポーツ	同上			
8	選択スポーツ	同上			
9	選択スポーツ	同上			
10	選択スポーツ	同上			
11	選択スポーツ	同上			
12	選択スポーツ	同上			
13	選択スポーツ	同上			
14	選択スポーツ	同上			
15	予備日				
テキスト、参考書		特になし、運動のできる服装にて参加のこと			

授 業 科 目 名	解 剖 学	担 当 教 員	小 林 圭 一
対 象 学 生	1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1・2	組織	人体の構成 細胞 組織	A-a.定義、目的、分類 b.細胞と組織 c.形態発生
3・4	骨格系	骨学総論	B-a.骨の構造と分類 b.関節の構造と分類 c.各部の骨・靭帯・関節
5・6		関節総論 関節各論	
7・8	筋系	筋系総論	C-a.筋の構造と形態、作用
9	テスト	骨・筋のテスト	b.各部の筋・腱
10	脈管系	体循環、肺循環 心臓	H.体表解剖
11	消化器系	内臓学(消化器) 口～胃～腸 肝・胆・膵	E-a.心臓 b.動脈系 c.静脈系 d.リンパ系
～			F-a.消化器
12			b.呼吸器
13	呼吸器系	(嚥下) 呼吸器	c.泌尿生殖器
～			
14			
15	泌尿器系	泌尿器系	
～			
16			
17	生殖器系	男性生殖器 女性生殖器	d.内分泌腺
18	内分泌系	内分泌器官 ホルモンのはたらき	G.感覚器
19	感覚器系	皮膚・視覚器・平衡聴覚器など	
～			
20			
21	神経系	神経系総論 中枢神経系	D-a.中枢神経系
～			
22			
23	神経系	末梢神経系 自律神経系	b.末梢神経系
～			I.断層解剖
24			
25	総まとめ	過去国家試験問題を中心とした解説	
～			
26			
27	予備		
～			
28			
テキスト、参考書		テキスト:「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」(医学書院)	

授 業 科 目 名		解 剖 学 実 習	担 当 教 員	小 林 圭 一	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	概説			A-a.定義、目的、分類 b.細胞と組織 c.形態発生	
2	人体の動き	解剖学用語について			
3	骨格系	頭蓋骨		B-a.骨の構造と分類 b.関節の構造と分類 c.各部の骨・靭帯・関節	
4		骨学各論（全身の骨）			
5		関節			
6	筋系	筋各論（全身の筋）		C-a.筋の構造と形態、作用	
7	脈管系	体循環、肺循環 心臓		b.各部の筋・腱	
8	消化器系	消化器		E-a.心臓 b.動脈系 c.静脈系 d.リンパ系	
9	呼吸器系	呼吸器			
10	泌尿器系	泌尿器系		F-a.消化器 b.呼吸器	
11	生殖器系 内分泌系	生殖器 内分泌器		c.泌尿生殖器 d.内分泌腺	
12	感覚器系			G.感覚器	
13	神経系	中枢神経		D-a.中枢神経系	
14		末梢神経		b.末梢神経系	
15	予備				
16	骨学実習	骨の観察		B-a.骨の構造と分類 b.関節の構造と分類 c.各部の骨・靭帯・関節	
~					
23					
24	総合的実習	人体の動きに関しての骨、関節、筋、神経の働きに関する観察		H.体表解剖	
~				I.断層解剖	
27					
28	神経系	伝導路			
		*前期は解剖学の講義を補充する。主に図や模型を用いて講義を進めていく			
		*後期途中2回分(半日)解剖見学実習を行なう予定			
テキスト、参考書		テキスト:「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」(医学書院) 「PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート」(医歯薬出版) 「分冊 解剖学アトラス 運動器第5版」(文光堂)			

授 業 科 目 名		生 理 学	担 当 教 員	高 山 清 茂	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	生理学概論	生理学とは、ホメオスタシスについて		2 生理学	
2	細胞機能の基礎	細胞の環境、細胞の機能的構造、細胞と細胞外液間の物質輸送、機能蛋白質の形成、細胞機能の調節		A	
3	細胞の興奮発生	刺激と興奮、膜電位と興奮伝導()		B	
4	細胞の興奮発生	興奮発生とイオンチャネル、興奮の伝導と興奮伝導()		B	
5	骨格筋の収縮()	骨格筋の種類と構造、筋線維の構造		C	
6	骨格筋の収縮()	筋収縮、興奮収縮連関、筋収縮力学、筋のエネルギー発生		C	
7	シナプス伝達()	神経筋伝達、中枢神経系のシナプス伝達		D	
8	シナプス伝達()	神経伝達物質と受容体、中枢のシナプスによる興奮伝達の統合、シナプスの可塑性		D	
9	末梢自律神経系	自律神経系の構成と作用、自律神経系の受容体		D	
10	運動系	脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質		D	
11	運動生理	運動における生体の生理変化		M	
12	感覚()	感覚総論、体性感覚、内臓感覚、痛覚		E	
13	感覚()	味覚、嗅覚		E	
14	感覚()	聴覚、前庭感覚、視覚			
15	神経系(まとめ)	中枢神経系の統合		D	
16	血液	血液の機能、血液の組成、血液型、血液の凝固		G	
17	生体防御機構	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構(免疫機構)		G	
18	循環()	心臓、自動性、心筋の電気的活動、心電図		G	
19	循環()	循環力学、循環中枢		G	
20	呼吸()	呼吸の機械学、肺内圧と肺体積、換気		F	
21	呼吸()	ガス交換、呼吸調節中枢		F	
22	排泄()	腎機能学的解剖学、腎循環、糸球体濾過、再吸収と分泌		I	
23	排泄()	対向流増幅系、対向流交換系、尿の濃縮と希釈、尿の酸性化、細胞外液の調節、酸 - 塩基平衡		I	
24	栄養・代謝	代謝、中間代謝、エネルギー代謝		K	
25	消化・吸収	消化管の運動		H	
26	消化・吸収	糖質、蛋白質、脂質の消化と吸収、消化管ホルモン		H	
27	内分泌系()	ホルモンの分泌とその調節機構		J	
28	内分泌系()	視床下部-下垂体系、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン		J	
29	内分泌系()	副腎髄質・副腎皮質ホルモン、膵臓からのホルモン		J	
30	体温調節	体温の生理的変動、体内における熱の産生、体温調節機構		L	
テキスト、参考書		テキスト:「人体の構造と機能」佐藤昭夫、佐伯由香(医歯薬出版) 「基礎から学ぶ生理学ノート」中島雅美(医歯薬出版)			

授 業 科 目 名		生 理 学 実 習	担 当 教 員	高 山 清 茂	
対 象 学		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	実習課題 1	血圧測定			
2	実習課題 2	心電図測定			
3	実習課題 3	肺機能測定			
4	実習課題 4	腎機能測定			
5	実習課題 5	血液測定			
6	実習課題 6	ヒト運動神経伝導速度の測定			
7	実習課題 7	ヒト大脳誘発電位の測定			
8	実習課題 8	カエル中枢神経破壊・切断実験			
9	実習課題 9	カエル坐骨神経、電気刺激による興奮と伝導			
10	実習課題 10	カエル神経・筋標本を使い神経の電気刺激による筋収縮			
11	実習課題 11	ビデオ視聴第 1 回 驚異の小宇宙 脳と心			
12	実習課題 12	ビデオ視聴第 2 回 The Brain:1400 グラムの管制塔			
13	実習課題 13	ビデオ視聴第 3 回 The Brain:脳は超コンピュータ?			
14	実習課題 14	ビデオ視聴第 4 回 The Brain:脳を支配する物質			
15	実習課題 15	ビデオ視聴第 5 回 The Brain:脳はこうして記憶する			
テキスト、参考書		テキスト:「新生理学実習書」日本生理学会編(南江堂)			

授 業 科 目 名		運 動 学	担 当 教 員	近 藤 照 彦	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	運動学とは	講義概要解説、運動学とその領域、歴史、現状と展望、 国家試験出題基準の解説		定義・目的	
2	力学の基礎	力学と身体運動・運動の表し方・法則		力学の基礎	
3	生体の構造と機能	細胞・組織・運動器・神経系・中枢神経・感覚器		運動と呼吸循環	
4	生体の構造と機能	呼吸・血液循環・体温調節・腎臓		運動処方	
5	生体の構造と機能	栄養とエネルギー代謝・肥満			
6	四肢と体幹の運動	上肢・下肢の各運動		運動器の構造と機能	
7	四肢と体幹の運動	上肢・下肢の各運動		運動の中枢神経機構	
8	四肢と体幹の運動	体幹・脊柱の各運動		運動とエネルギー代謝	
9	四肢と体幹の運動	体幹・脊柱の各運動		四肢と体幹の運動	
10	運動・動作分析	運動・作業動作・日常生活動作・身体運動の各分析		運動分析・動作分析	
11	姿勢	重心・安定性・各種姿勢		姿勢	
12	歩行	周期・運動学的歩行・歩行分析		歩行	
13	歩行	エネルギー代謝・小児歩行・義足歩行			
14	異常歩行	異常歩行の観察			
15	運動発達・学習	成長・成熟・運動技能・能力・運動心理		運動制御と運動学習	
テキスト、参考書		テキスト:「基礎運動学第5版」中村隆一(医歯薬出版) ¥5800 「運動学ワードブック」理学療法科学学会(アイペック) ¥2500			

授 業 科 目 名		運 動 学 実 習	担 当 教 員	近 藤 照 彦
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	運動学実習とは	講義概要解説、運動学実習とその6領域の教官紹介、 実習説明、6班編制の説明など		定義・目的
2	レポートの書き方 統計処理法	観察、実験および測定を行い、得られたデータの基本的な解析を行い、実習の目的に沿った考察を加えレポートとして完成させる一連の手順を学ぶ		
	実習領域	実習領域 担当：近藤照彦		四肢と体幹の運動 運動器の構造と機能
3	筋力・筋機能	実習内容別途指示する		
4	筋力・筋機能	実習領域 担当：江口勝彦・橋立博幸		運動とエネルギー代謝
5	呼吸循環・エネルギー代謝	実習内容別途指示する		運動と呼吸循環 運動処方
6	呼吸循環・エネルギー代謝	実習領域 担当：富田 浩		運動分析・動作分析
7	運動・動作分析	実習内容別途指示する		
8	運動・動作分析	実習領域 担当：柴田雅祥		歩行
9	歩行	実習内容別途指示する		
10	歩行	実習領域 担当：北川公路		運動制御と運動学習
11	感覚	実習内容別途指示する		
12	感覚	実習領域 担当：目黒 力		力学の基礎・姿勢
13	姿勢	実習内容別途指示する		
14	姿勢			
15	実習予備日・総括			
		* 本年度開講せず		
テキスト、参考書		テキスト：「運動学実習マニュアル第1版」理学療法科学学会(アイペック) 2002		

授 業 科 目 名		人 間 発 達 学	担 当 教 員	青 山 正 征	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	人間発達とは(1)	発達概要		a. 定義、目的	
2	人間発達とは(2)	発達理論と研究方法		b. 発達理論	
3	出生前発達と出生			c. 発達段階と発達課題	
4	乳児・幼児前期(1)	身体的発達		d. 身体発達	
5	乳児・幼児前期(2)	認知的発達		e. 精神発達	
6	乳児・幼児前期(3)	情緒的・社会的発達		f. 心理社会的発達	
7	幼児期後期(1)	身体的発達と認知的発達		<各期における発達>	
8	幼児期後期(2)	情緒的・社会的発達と乳幼児期の発達評価		a. 小児期	
9	学童期(1)	身体的発達と認知的発達			
10	学童期(2)	情緒的・社会的発達			
11	障害児の発達と支援				
12	青年期			b. 青年期	
13	成人期			c. 成人期	
14	高齢期			d. 老年期	
15	テスト				
テキスト、参考書		テキスト「生涯人間発達学」上田礼子(三輪書店) 1996			

授業科目名		機能解剖学	担当教員	石川春律	
対象学生		1 学年	学期	後 期	
単位 (コマ数)		2 単位 (15 コマ)	選 択	講義室	
回	講義題目	教科内容		国家試験出題基準	
1	上肢(1)	上肢帯、上腕		1-B、C、D、	3-B
2	" (2)	前腕、手		1-B、C、D、	3-B
3	下肢(1)	下肢帯、大腿		1-B、C、D、	3-B
4	" (2)	下腿、足、歩行		1-B、C、D、	3-B、E
5	体幹(1)	背部、脊椎、固有背筋		1-B、C、D、	3-B、C
6	" (2)	胸部、呼吸筋		1-B、C、D、	3-B
7	" (3)	腹部、腹筋		1-B、C、D、	3-B
8	頸部	頸部、前頸筋		1-B、C、D、	3-B
9	頭部	頭部、頭蓋、顔面、表情筋		1-B、C、D、	3-B
10	中枢神経系(1)	脊髄、延髄、橋、小脳		1-D	
11	" (2)	中脳、間脳、終脳		1-D	
12	" (3)	神経路		1-D	
13	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経系		1-D	
14	演習(1)				
15	演習(2)				
テキスト、参考書					

授 業 科 目 名		発 達 心 理 学	担 当 教 員	北 川 公 路	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	発達心理学の成立	発達心理学の性格・目的・歴史・方法			
2	発達の理論(1)	ピアジェの理論			
3					
4	発達の理論(2)	フロイトの理論			
5					
6	発達の理論(3)	エリクソンの理論			
7					
8	発達の諸側面	認識の発達			
~		記憶の発達			
13		思考の発達			
		コミュニケーションの発達			
14	生涯発達の視点	生涯発達の過程			
15	発達障害	発達障害の概念と分類			
		精神遅滞の発達心理			
		自閉症の発達心理			
テキスト、参考書					

授業科目名	病 理 学	担当教員	武 田 淳 史
対象学生	2 学 年	学 期	後 期
単位 (コマ数)	1 単位 (15 コマ)	必 修	講義室
回	講義題目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	病理学とは	病理学について、細胞の構造と働き、代謝異常について	I 人体の構造と機能
2	修復と再生	組織の修復と再生、老化	(解剖学)
3	循環障害	充血、うっ血、虚血、梗塞	A 総論
4	炎症、免疫	炎症、免疫、アレルギー、感染症	B 骨格系
5	腫瘍	腫瘍の分類、転移。良性、悪性腫瘍	C 筋系
6	遺伝と先天異常	遺伝病、染色体異常、先天異常、遺伝子治療	D 神経系
7	循環器各論	血管と心臓の病気	E 脈管系
8	呼吸器各論	肺の構造と働き、炎症、循環障害、閉塞性、拘束性肺疾患、肺癌	F 内臓諸器官
9	消化器各論	食道、胃、腸の疾患、肝、胆、膵疾患	G 感覚器
10	造血器各論	赤血球、白血球の異常 リンパ節の病気	(運動学)
11	泌尿器各論	腎臓、膀胱の病気	A 運動器の構造と機能
12	生殖器各論	女性生殖器、男性生殖器の病気	B 運動と呼吸循環
13	神経系各論	外傷、循環障害、感染症、変性疾患、腫瘍	II 疾病の障害と成り立ち
14	内分泌系各論	視床下部、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓疾患	(病理学概論)
15	運動器各論	骨・軟骨、筋肉疾患	A 病因論
			B 退行変性、代謝異常
			C 進行性病変
			D 循環障害
			E 炎症、免疫
			F 腫瘍
			G 先天異常
			H 老化
テキスト、参考書		テキスト:「シンプル病理学」綿貫 勤著(南江堂)	

授 業 科 目 名		臨 床 心 理 学	担 当 教 員	北 川 公 路	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 ~ 5	臨床心理学の基本的 発想	臨床心理学概論 臨床心理学の対象 臨床心理学の課題		基礎理論・歴史 正常および異常理論 防衛機制と転移 学習・記憶・行動 児童・青年期心理 成人・高齢者心理 障害者心理 臨床心理検査法	
6 ~ 8	臨床アセスメントの 方法と 臨床面接	臨床アセスメントの基本的な考え方 パーソナリティ・アセスメントの方法 行動アセスメントの方法 発達アセスメントの方法 病理のアセスメント			
9 ~ 13	障害	神経症、不安障害、身体表現性障害、解離性障害、 適応障害、人格障害 摂食障害、統合失調症、依存症、気分障害、てんか ん、睡眠障害、性障害 老化とその障害			
14 ~ 15	心理療法	力動精神療法、認知行動療法、支持療法、薬物療法		心理療法 カウンセリング	
テキスト、参考書		テキスト：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学」 町沢静雄(医学書院)			

授 業 科 目 名	内 科 学	担 当 教 員	小 林 功
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	症候学	主要臨床症状の把握	準拠
2	診断学と治療学	内科診断学と治療	〃
3	感染症	主要な事項を理解する	〃
4	循環器疾患	〃	〃
5	呼吸器疾患	〃	〃
6	消化器疾患	〃	〃
7	肝・胆・膵疾患	〃	〃
8	血液疾患	〃	〃
9	代謝性疾患	〃	〃
10	内分泌疾患	〃	〃
11	腎泌尿器疾患	〃	〃
12	膠原病・アレルギー 性疾患	〃	〃
13	中毒・物理化学的要 因による疾患	〃	〃
14	皮膚疾患	〃	〃
15	理学療法学と内科学	〃	〃
テキスト、参考書		テキスト：「標準理学療法学・作業療法学 内科学」大成浄志(医学書院)	

授 業 科 目 名		神 経 内 科 学	担 当 教 員	古 城 徹
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	神経学とは	疾病と老化をテーマに、脳・神経に関する理解を深めるためのオリエンテーションをおこなう		
2	脳と神経 1	脳・神経系のおもな構造と機能を理解する		脳・神経の構造と生理
3	神経疾患総論 1	脳・神経の発達と加齢による変化を含めて病態をとらえる		脳・神経の病態生理
4	神経疾患総論 2	病気の診断の手がかりとなる症候について、とくに急性と慢性を分けて説明できるようにする		神経学的症候と診断
5	神経系の検査	おもな検査法と、その所見から得られる情報を学ぶ		神経学的検査法
6	治療概説	疾患の治療について具体例を挙げながら、内科一般の治療と結びつけて理解する		治療法一般
7	神経疾患各論 1	脳卒中のおもな分類と各論を学ぶ		脳血管障害
8	神経疾患各論 2	脳卒中以外の脳疾患の概略を学ぶ		外傷性脳損傷
9	神経疾患各論 3	神経系の感染症を小児と成人に分けて理解する		感染症
10	神経疾患各論 4	パーキンソン病などの変性疾患について理解を深める		脱髄疾患・変性疾患
11	神経疾患各論 5	先天異常の診断と加齢による変化の違いを学ぶ		先天異常
12	神経疾患各論 6	脊髄疾患の診断と経過・予後について学ぶ		脊髄疾患
13	神経疾患各論 7	末梢神経に起こる病変と各論を学ぶ		末梢神経疾患
14	神経疾患各論 8	自律神経系の異常と症候を結びつけて疾患を理解できるようにする		自律神経疾患
15	神経疾患各論 9	筋肉の異常を先天性と後天性疾患に分けて学ぶ		筋疾患
テキスト、参考書		テキスト：「神経内科学テキスト」江藤文夫、飯島 節編集(南江堂)		

授 業 科 目 名		整 形 外 科 学	担 当 教 員	角 田 隆
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	整形外科とは・骨・関節の構造・整形外科的診察法	整形外科の内容、骨関節の解剖、四肢角度計測、徒手筋力検査法(MMT)		骨関節の構造と生理、整形外科症状と診断、整形外科的検査法
2	骨折・関節外傷	骨折の分類・診断・治療、骨折治療の三原則、二関節固定の原則、関節外傷の分類・診断・治療		保存的治療と手術的治療
3	骨・関節感染症	骨髄炎・化膿性関節炎の診断と治療		骨関節の感染症
4	骨代謝・骨系統疾患・骨端症	骨軟化症・骨粗鬆症・骨系統疾患の診断・治療、骨端症とは		代謝性疾患
5	関節炎・関節症	慢性関節リウマチ、変形性関節症、神経病性関節症、血友病性関節症		慢性関節リウマチとその近縁疾患
6	骨軟部腫瘍	骨軟部の良性・悪性腫瘍の分類・診断・治療、骨肉腫、巨細胞腫		骨軟部腫瘍
7	股関節の疾患・外傷	先天性股関節脱臼、骨頭すべり症、ペルテス病、大腿骨頸部骨折、特発性骨頭壊死、変形性股関節症		変形性関節症と外傷
8	膝関節の疾患・外傷	オスグッドシュラッテル病、膝靭帯損傷、半月損傷・膝蓋骨脱臼、変形性膝関節症		変形性関節症と外傷
9	足部の疾患・外傷	先天性内反足、ケラー病、踵骨骨端症、足関節脱臼骨折の分類、踵骨骨折、アキレス腱損傷		先天性異常及び系統疾患
10	脊椎の疾患・外傷	脊椎の機能解剖、斜頸、脊椎側弯症、頸椎ヘルニア、後縦走靭帯骨化症、脊椎分離症、脊椎すべり症、腰椎椎間板ヘルニア		脊髄・脊椎疾患及び損傷
11	脊髄損傷・末梢神経障害	脊髄損傷の診断・治療、末梢神経損傷の分類(Seddon)・診断・治療、絞扼性神経障害		脊髄・脊椎疾患及び損傷と末梢神経損傷
12	肩・肘関節・前腕の疾患・外傷	肩関節周囲炎、肩腱板損傷、肩関節脱臼、小児上腕骨顆上骨折、モンテジア骨折、フォルクマン拘縮		変形性関節症、外傷と骨折
13	手の疾患・外傷 1	手の機能解剖、コーレス骨折、舟状骨骨折、キーンバック病、手の腱鞘炎		外傷と骨折
14	手の疾患・外傷 2	手の先天奇形、屈筋腱・伸筋腱損傷、手指の靭帯損傷、槌指、ボタン穴変形、スワンネック変形		先天性異常と外傷
15	切断・その他	四肢の切断と義手・義足、その他・予備		
テキスト、参考書		テキスト：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」立野勝彦(医学書院)		

授業科目名		小児科学	担当教員	青山正征	
対象学生		2 学年	学期	後 期	
単位 (コマ数)		1 単位 (15 コマ)	必修	講義室	
回	講義題目	教科内容		国家試験出題基準	
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ		a. 小児の成長と発達	
2	小児科学概論(つづき)			b. 小児保健と小児栄養	
3	診断と治療の概要			c. 小児科学的症候と診断	
4	新生児・未熟児疾患			d. 小児科学的検査法	
5	先天異常、先天代謝異常			e. 治療法一般	
6	神経・筋・骨等疾患	リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ		f. 先天異常及び系統疾患	
7	神経・筋・骨等疾患(つづき)			g. 脳・神経・筋疾患	
8	循環器疾患、呼吸器疾患			てんかん	
9	感染症、消化器疾患			h. 循環器疾患、呼吸器疾患	
10	内分泌・代謝疾患			i. 感染症、消化器疾患	
11	血液疾患			j. 内分泌・代謝疾患	
12	免疫・アレルギー疾患、膠原病			k. 血液・造血器疾患	
13	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患			l. 免疫・アレルギー疾患	
14	心身症、神経症など	特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ		m. 泌尿器疾患	
15	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患			n. 知的障害	
15	テスト				
テキスト、参考書		テキスト：「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」富田 豊著（医学書院）2000			

授業科目名		精神医学	担当教員	松田 豊	
対象学生		2 学年	学期	後 期	
単位 (コマ数)		1 単位 (15 コマ)	必修	講義室	
回	講義題目	教科内容		国家試験出題基準	
1	総論 1	精神病の生物学的基盤と社会文化的背景、発症因子、精神病の予防、診断、治療、リハビリ		Fa: 精神障害の原因と分類 Fb: 精神医学的症候と診断 Fc: 精神医学的検査法 Ff: 精神科リハビリテーション, 社会復帰	
2	総論 2	精神医学と法律、入院の形態、入院患者の権利保障、司法精神医学		Fh: 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
3	統合失調症 1	統合失調症の精神病理、発症の背景		Fk: 精神分裂病, 分裂病型障害および妄想性障害	
4	統合失調症 2	統合失調症の治療、精神薬理、リハビリ		Fk: 同上	
5	躁鬱病 1	躁鬱病の精神病理、発症因子		Fl: 気分(感情)障害(躁鬱病, 鬱病)	
6	躁鬱病 2	躁鬱病の治療、精神薬理		Fl: 同上	
7	神経症	強迫神経症、不安神経症、心気症		Fm: 神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害	
8	人格障害	境界型人格障害、その他の人格障害		Fo: 成人の人格および行動の障害	
9	摂食障害	拒食症、過食症		Fo: 同上	
10	薬物依存	アルコール依存症、薬物依存		Fj: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	
11	児童精神医学	発達障害、学習障害、多動症、知的障害など		Fr: 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害	
12	てんかん	てんかんの神経学、分類、診断、治療		Fs: てんかん	
13	痴呆 1	症候性の痴呆、脳血管性痴呆		Fi: 器質性精神障害	
14	痴呆 2	アルツハイマー病、その他の変性疾患による痴呆		Fi: 同上	
15	まとめ				
テキスト、参考書		テキスト: 「心の地図 上下巻」市橋秀夫(星和書店) 「メルクマニュアル医学情報[家庭版]第6節<脳と神経の疾患>、第7節<精神疾患>」(日本BP社)			

授 業 科 目 名		リハビリテーション医学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	障害の評価 1	医学的情報の評価、機能障害の評価、能力低下（活動制限）の評価		障害の評価
2	障害の評価 2	社会的不利の評価、環境因子の評価		障害の評価
3	機能障害の病態生理と回復 1	筋肉・柔部組織損傷、骨・関節損傷、末梢神経損傷		
4	機能障害の病態生理と回復 2	大脳・基底核・脳幹・小脳の損傷、高次脳機能障害 脊髄の障害。		機能障害の病態生理と回復
5	機能障害の病態生理と回復 3	痛み、呼吸機能、心機能、嚥下と口腔衛生、排泄		機能障害の病態生理と回復
5	廃用症候群などの病態生理	発生機序、廃用症状、誤用と過用		廃用症候群
6	治療理論 1	関節可動域、筋力増強、中枢神経障害		治療理論
7	治療理論 2	体力と持久力、バイオフィードバック、運動負荷とリスク管理		治療理論
8	リハビリテーション医学の臨床 1	脳血管障害、外傷性脳損傷		脳血管障害、外傷性脳損傷
9	リハビリテーション医学の臨床 2	脊髄損傷、脳性麻痺、末梢血管疾患		脊髄損傷、脳性麻痺、末梢血管疾患
10	リハビリテーション医学の臨床 3	切断と義肢、末梢神経麻痺、変性疾患		切断と義肢、末梢神経麻痺、変性疾患
11	リハビリテーション医学の臨床 4	筋疾患、慢性関節リウマチ・その他の膠原病		筋疾患、慢性関節リウマチ・その他の膠原病
12	リハビリテーション医学の臨床 5	骨関節の外傷および疾患、呼吸器疾患		骨関節の外傷および疾患。呼吸器疾患
13	リハビリテーション医学の臨床 6	循環器疾患、糖尿病、血液疾患		循環器疾患、糖尿病、血液疾患
14	リハビリテーション医学の臨床 7	悪性腫瘍、視覚障害、聴覚・平衡障害、高齢者		悪性腫瘍、視覚障害、聴覚・平衡障害、高齢者
15	その他	必要に応じて内容を補う		
テキスト、参考書		テキスト：「入門リハビリテーション医学」中村隆一監修(医歯薬出版)		

授業科目名		臨床検査学	担当教員	平尾良雄	
対象学生		2 学年	学期	後 期	
単位 (コマ数)		1 単位 (7 コマ)	必修	講義室	
回	講義題目	教科内容		国家試験出題基準	
		講義中に掲示する			
テキスト、参考書					

授業科目名		医学概論	担当教員	栗田昌裕	
対象学生		2 学年	学期	前期	
単位 (コマ数)		2 単位 (15 コマ)	選択	講義室	
回	講義題目	教科内容		国家試験出題基準	
1	医学の歴史 1	医学の起源、古代の医学、中世の医学		医学概論、医学の定義	
2	医学の歴史 2	近世の医学、20 世紀の医学、日本の医学の歴史		医学概論、医学の定義	
3	病気の診断	問診、診察、臨床検査、臨床診断、遺伝子診断		一般臨床医学、内科学、診断学	
4	病気の治療	治療法、現代の治療法、安静と食事と看護		一般臨床医学、内科学、治療学	
5	病気の治療と リハビリテーション	リハビリテーション医学、総合的医療 目的、病気の回復、慢性疾患、施設と専門職		リハビリテーション医学、医療行為	
6	健康と病気と 医学の体系	健康、個人と社会の責任、病気の理解と分類 病気と心の働き、医学の体系		健康・疾病の概念 医療行為	
7	病気の原因	病変と症状、病理学の分類と内容、病気の原因		病因論、病気の原因	
8	病気の原因	病気の内因と外因、原因不明の病気、身体の抵抗力		病因論	
9	病気による身体変化 1	病変の分類、血行障害による病変		循環障害	
10	病気による身体変化 2	進行性の病変、退行性の病変、炎症		進行性病変、退行性病変 と代謝異常、炎症・免疫	
11	病気による身体変化 3	腫瘍、良性腫瘍、悪性腫瘍、白血病、奇形、生体反応		腫瘍 (新生物) 先天異常	
12	病気の予防 1			保険と医療	
13	病気の予防 2	予防の原則、予防医学と衛生学		保険と医療	
14	新しい医療システム	健康診断、人間ドック、習慣病の予防		保険と医療	
15	健康教育と衛生統計	医療システムの概要、自由診療、保険診療、慈善医療 新しい健康教育、衛生統計、衛生政策と公衆衛生 医療関係者と施設、医の倫理		医療行為、保険と医療 医の倫理	
テキスト参考書		テキスト: 「系統看護学講座別巻 11 医学概論」日野原重明著 (医学書院)			

授 業 科 目 名	老 年 医 学	担 当 教 員	栗 田 昌 裕
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化	老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化	加齢による病態生理変化
2	運動機能と精神心理面の加齢変化	高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴	老年疾患・障害の特徴
3	高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群	老年症候群の概念、代表的な老年症候群	老年疾患・障害の特徴
4	循環器疾患、呼吸器疾患	循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎	循環器疾患、呼吸器疾患
5	消化器疾患	高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患	消化器疾患
6	骨運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ	変形性関節症、慢性関節リウマチ
7	精神神経疾患	精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害	末梢神経疾患、自律神経疾患
8	内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患	糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病、	代謝・内分泌性疾患、血液疾患
9	腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患	腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患	腎疾患
10	感染症、高齢者との接し方	高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかわり	感染症
11	高齢者の機能評価	高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価	加齢による病態生理変化
12	高齢者の退院支援 高齢者の定義および人口動態	高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態	高齢者の治療とケアの特徴
13	社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険	高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健	高齢者の治療とケアの特徴
14	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法	高齢者の治療とケアの特徴
15	その他	必要に応じて時間的・内容的に補充する	
テキスト参考書		テキスト：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野	老寝学」大内尉義(医学書院)

授業科目名		公衆衛生学	担当教員	内藤和美	
対象学生		2 学年	学 期	前 期	
単位 (コマ数)		2 単位 (15 コマ)	必 修	講義室	
回	講義題目	教 科 内 容		国家試験出題基準	
1	公衆衛生の基本概念	健康の概念 公衆衛生の概念 プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション WHO 疫学		保健医療福祉とリハビリテーションの理念 2. 公衆衛生学 A. 健康・疾病・障害の概念と社会環境 A 健康の概念 B. 疫学 a 疫学の概念	
2	健康の指標	粗死亡率と年齢調整死亡率 乳児死亡率		C 人口・衛生統計 b 疾病・障害の統計	
3	健康の指標	平均余命と平均寿命 PMI 死因別死亡率		b 疾病・障害の統計	
4	人口統計	人口静態と人口動態 5 事象 粗出生率 合計特殊出生率 再生産率 人口の高齢化		a 人口統計	
5	環境保健	物理学的環境 化学的環境 生物学的環境 社会環境 水の衛生と水質汚濁 一般廃棄物と廃棄物処理		I 環境保健 a 環境汚染と公害	
6	食品衛生	食中毒とその予防 食品衛生 国民栄養調査			
7	疾病予防と健康管理	感染症の成り立ち(感染源 感染経路 宿主)とそれぞれの遮断手立て		H 感染症対策 a 現状と動向	
8	疾病予防と健康管理	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、結核予防法		H 感染症対策 a 現状と動向	
9	疾病予防と健康管理	疾病予防の3段階と各段階の主要方法 がん		D 健康管理 a 健康教育、健康増進	
10	疾病予防と健康管理	虚血性心疾患 脳血管疾患 糖尿病		F 成人・老人保健 a 現状と動向	
11	地域保健と行政	地域保健活動 保健所 市町村保健センター		3. 保健医療福祉制度と関係法規 B 地域保健と地域医療	
12	産業保健	健康管理 作業管理 作業環境管理		J 産業保健	
13	産業保健	職業病・業務上疾病 労働災害			
14	母子保健	母子保健法による事業		E 母子保健	
15	母体保護	母体保護		a 現状と動向	
	学校保健 難病対策	健康診断、健康相談、保健教育、安全管理 特定疾患			
テキスト、参考書		テキスト:「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮・久道 茂著(南江堂)2003 「国民衛生の動向 2002 年度版」(厚生統計協会)2002			

授 業 科 目 名		リハビリテーション概論	担 当 教 員	松 澤 正	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		総論（定義、理念、歴史）		定義、歴史、ノーマライゼーション、自立生活、QOL	
2		障害論（障害の定義、障害の三つの過程、障害の現状）		障害の概念、分類（国際障害分類）	
3				障害の心理	
4		障害の心理		リハビリテーションの諸相、リハの進め方	
5		リハビリテーションの分類と進め方		医学的リハビリテーション	
6		医学的リハビリテーション（予防的リハビリテーション）		医学的リハビリテーション	
7		医学的リハビリテーション（回復的リハビリテーション）		医学的リハビリテーション	
8		医学的リハビリテーション（維持的リハビリテーション）		教育的リハビリテーション	
9		教育的リハビリテーション		職業的リハビリテーション	
10		職業的リハビリテーション		保健医療福祉制度	
11		社会的リハビリテーション（保健医療福祉制度）		関係法規	
12		社会的リハビリテーション（関係法規）		地域リハビリテーション	
13		地域リハビリテーション（寝たきり老人のリハビリテーション）		地域リハビリテーション	
14		地域リハビリテーション（痴呆老人のリハビリテーション）			
15		総合リハビリテーション施設見学			
		総合リハビリテーション施設見学			
		期末試験			
テキスト、参考書		プリント、参考書：「入門リハビリテーション概論」中村隆一編（医歯薬出版）			

授 業 科 目 名		社 会 福 祉 学	担 当 教 員	金 谷 春 代	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	社会保障の概念	私達の生活と社会保障 社会保障の歴史を通して社会保障の捉え方を考える			
2	社会保険の概要	社会保障における社会保険の意味を考えながら、日常生活の中で、社会保険がどのような役割をしているのかを捉える			
3	健康保険法	健康保険法・国民健康保険法等の制度と概要を捉える			
4	社会福祉の概念	社会福祉の歴史から福祉の意義を考える			
5	生活保護法と施策	現代社会の中での生活保護とは何かを考え、制度概要を捉える			
6	児童福祉法と施策	児童を廻る問題と課題について、施策の流れの中で捉え、考察する			
7	身体障害者・児福祉と施策	身体障害者・児の福祉と施策についての概要を捉える			
8	知的障害者・児福祉と施策	知的障害者・児福祉と施策についての概要を捉える			
9	精神障害者・児福祉と施策	精神障害者・児福祉と施策についての概要を捉える			
10	老人福祉と施策				
11	老人保健法と施策	高齢化社会が社会にもたらす影響を考えながら、福祉・保健のあり方がどのように変化してきたかを捉える			
12	介護保険法	高齢者にとっての医療の変遷を見ながら、医療のあり方を考える			
13	社会福祉行政	高齢者から始まった社会保険方式の介護保険がもたらす影響と制度について学習する			
14	マンパワー	社会福祉に関係する行政機関等について学習する			
15	試 験	現代に求められる福祉のマンパワーについて考える			
テキスト、参考書					

授 業 科 目 名		理 学 療 法 概 論	担 当 教 員	松 澤 正	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		理学療法の定義と分類		理学療法の概念(定義)	
2		理学療法とリハビリテーション		理学療法の概念	
3		理学療法と障害論		障害の捉え方、障害分類	
4		理学療法の歴史		歴史	
5		理学療法士法		法規	
6		職業倫理		倫理	
7		理学療法業務と組織		管理	
8		理学療法の領域		対象	
9		理学療法士の活動現場		対象	
10		理学療法の対象		対象	
11		理学療法の治療の流れ		治療計画、治療の実施	
12		理学療法士の学術活動		管理	
13		病院見学			
14		病院見学			
15		病院見学			
		期末試験			
テキスト、参考書		テキスト:「理学療法概論」奈良 勲編(医歯薬出版)			

授 業 科 目 名		臨 床 運 動 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション .総論	臨床運動学概論 臨床運動学とは何か.理学療法における基礎と臨床 (前提条件:身体基礎運動学の修得)		基礎理学療法学全般 理学療法評価学全般 理学療法治療学全般
2	.総論 歩 行	歩行の臨床運動学(担当 丸山仁司)		
3	.総論 動作分析	臨床動作分析概論(担当 高橋正明)		
4	.総論 思考過程	クリニカル・リーズニング(担当 齋藤昭彦)		
5	.概説 (病態運動学)	小テスト 骨・関節・靭帯の障害 筋・軟部組織の障害 (テキスト P3~36)		
6	.概説 (病態運動学)	小テスト 末梢神経障害(テキスト 41~74)		
7	.概説 (病態運動学)	小テスト 中枢神経障害(テキスト 41~74)		
8	.概説 (病態運動学)	小テスト 呼吸機能障害 心機能障害(テキスト 79~102)		
9	.概説 (病態運動学)	小テスト 各種合併症 : 廃用性萎縮 関節拘縮		
10	.概説 (病態運動学)	小テスト " : 異所性骨化 褥創 自立神経障害		
11	.演習	運動生理学(テキスト 各分担抄録発表)		
12	.演習	運動生理学(テキスト 各分担抄録発表)		
13	.演習	運動生理学(テキスト 各分担抄録発表)		
14	.演習	運動生理学(テキスト 各分担抄録発表)		
15	単位認定試験			
テキスト、参考書		テキスト(必要) 「臨床運動学」丸山仁司編(アイペック) 「標準理学療法学専門分野 臨床動作分析」高橋正明編(医学書院) 「からだの「仕組み」のサイエンス」宮下充正、加賀谷淳子編著(杏林書院) サブテキスト(あったほうがよい) 「体表解剖と代償運動」竹内孝仁他(医歯薬出版) 参考書(自由) 「臨床運動学」中村隆一(医歯薬出版) 「リハビリテーション基礎医学」上田敏他(医学書院)		

授 業 科 目 名		理 学 療 法 研 究 法	担 当 教 員	松 澤 正	
対 象 学 生		2 ~ 3 学 年	学 期	後期(2学年)・後期(3学年)	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		理学療法と研究(オリエンテーション、研究の手段、着眼)			
2		情報収集法(文献の集め方、読み方)			
3		仮説、プロトコルの立案			
4		研究発表の仕方			
5		論文の作成1(形式、内容、投稿規定、査読)			
6		論文の作成2(題名、著者名、序論、方法、結果、考察、結論、引用文献)			
7		臨床研究の実際1(機器を用いた研究)			
8		臨床研究の実際2(症例研究)			
9		理学療法研究に必要な統計1			
10		理学療法研究に必要な統計2			
11		文献抄読1			
12		文献抄読2			
13		文献抄読3			
14		文献抄読4			
15		まとめ			
テキスト、参考書		テキスト:「理学療法研究法」奈良 勲監修(医学書院)			

授 業 科 目 名		理 学 療 法 評 価 学	担 当 教 員	松 澤 正	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	理学療法評価総論	評価の意義、目的、評価過程、評価対象		理学療法評価の基本的理解	
2	理学療法評価各論	評価の種類、評価の時期と目的、記録		評価の時期と進め方	
3		新しい記録法(POSシステム、治療プログラムの立案			
4		評価実施上の留意、評価環境、評価器具、報告書			
5		一般的評価事項(病歴の取り方、現症、評価の種類)			
6		知覚検査		評価の過程と方法(感覚検査)	
7		知覚検査の実際			
8		反射検査		評価の過程と方法(反射検査)	
9		反射検査の実際			
10		姿勢反射検査(脊髄レベル、脳幹レベル)		評価の過程と方法(姿勢反射検査)	
11		姿勢反射検査(中脳レベル、脳皮質レベル)		評価の過程と方法(姿勢反射)	
12		姿勢反射検査の実際(脊髄レベル、脳幹レベル)			
13		姿勢反射検査の実際(中脳レベル、脳皮質レベル)			
14		協調性検査		評価の過程と方法(協調性検査)	
15		協調性検査の実際			
テキスト、参考書		テキスト:「理学療法評価学」松澤 正著(金原出版)			

授 業 科 目 名	理学療法評価学実習	担 当 教 員	富 田 浩
対 象 学 生	1 ~ 2 学 年	学 期	後期(1学年)・通年(2学年)
単 位 (コ マ 数)	3 単 位 (4 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	身体指標の触診	実習	基本的評価法 評価の過程と方法
2	形態測定	体格指数、四肢長、周径の測定方法	
3	形態測定	実習	
4	形態測定	実習	
5	関節可動域測定	講義	
6	関節可動域測定	実習	
7	関節可動域測定	実習	
8	関節可動域測定	実習	
9	関節可動域測定	実習	
10	関節可動域測定	実習	
11	実技試験		
12	実技試験		基本的評価法 評価の過程と方法
13	筋力検査	講義 徒手筋力検査法(原理)	
14	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(頭頸部)	
15	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(体幹)	
16	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(上肢)	
17	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(上肢)	
18	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(上肢)	
19	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(下肢)	
20	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(下肢)	
21	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(下肢)	
22	筋力検査	実習 徒手筋力検査法(顔面)	
23	筋力検査	機器を用いた筋力検査	基本的評価法 評価の過程と方法
24	筋力検査	筋持久力検査 他	
25	実技試験		基本的評価法 評価の過程と方法
26	実技試験		
27	バイタルサイン・意識レベルの評価	講義および実習	基本的評価法 評価の過程と方法
28	痴呆・痛みの評価	講義および実習	
29	筆記試験		基本的評価法 評価の過程と方法
30	筆記試験		
31	動作分析	実習	
32	動作分析	実習	
33	歩行分析	実習	
34	歩行分析	実習	
35	筋緊張検査	筋緊張、異常筋緊張、筋緊張検査法	
36	筋緊張検査	実習	障害別評価法 神経内科領域
37	片麻痺運動機能検査	中枢性運動障害、ブルンストローム片麻痺運動機能検査、12グレード片麻痺運動機能検査	
38	高次脳機能検査	講義および実習	
39	脳神経検査	講義および実習	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
40	実技試験		
41	実技試験		
42	理学療法評価における記録方法	講義および実習	理学療法の過程 評価
43	理学療法評価結果の統合・解釈	講義・演習	} 理学療法評価の基本的 理解 評価の時期と進め方
44	理学療法評価結果の統合・解釈	講義・演習	
45	筆記試験		
テキスト、参考書		テキスト：「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭他(南山堂) 「新・徒手筋力検査法」津山直一訳(共同医書) 「基礎運動学」中村隆一(医歯薬出版) 「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂他(共同医書) 「理学療法評価学」松澤 正(金原出版)	

授 業 科 目 名		基 礎 運 動 療 法 学	担 当 教 員	富 田 浩
対 象 学 生		1 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	概論	運動療法と関連領域		運動学 総論、 四肢と体幹の運動
2	運動器系	人体区分、骨の名称		
3	運動器系	関節の構造・関節の運動		
4	運動器系	運動の種類		
5	筆記試験			運動学 総論、 四肢と体幹の運動
6	運動器系	筋の名称と作用（グループワーク・発表）		
7	運動器系	筋の名称と作用（グループワーク・発表）		
8	運動器系	筋の名称と作用（グループワーク・発表）		理学療法の基礎理論 神経・筋機能の理論
9	運動器系	筋収縮の調整・筋力とは		
10	筆記試験			運動学 総論
11	Physical Therapy Terminology	理学療法学・リハビリテーション学・基礎ならびに臨床医学で用いられる用語について		
12	Technical Reading / Writing	専門の文章の読み方と書き方(レポートの書き方と論文の読み方)		
13	随意運動/感覚	随意運動のしくみ、感覚		
14	運動療法機器	運動療法で用いられる主な機器の概説		
15	筆記試験			
テキスト、参考書		<p>テキスト：「基礎運動学第5版」中村隆一他(医歯薬出版) 「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂他編(共同医書) 「標準理学療法学 運動療法学 総論」吉尾雅春編(医学書院) 「カルテ用語集」大藤高志他(医学書院)(12回、13回) 「発想法」川喜田二郎(中公新書) (12回、13回) 「理科系の作文技術」木下是雄(中公新書) (12回、13回) 「勉強・研究・発表の技法」草間 悟(南江堂) (12回、13回) 参考書：「リハビリテーション医学大辞典」上田 敏他編(医歯薬出版) 「続発想法」川喜田二郎(中公新書) 「運動療法学 」千住秀明他編(神陵文庫) 「新・徒手筋力検査法」津山直一訳(協同医書) 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」奈良 勲監修(医学書院) 「解剖学第1巻」森 於菟他(金原出版)</p>		

授 業 科 目 名		基 礎 運 動 療 法 実 習	担 当 教 員	富 田 浩	
対 象 学 生		1 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	動作分析	講義 動作分析とは、動作分析の方法		運動学	
2	動作分析	講義 動作筋電図		運動分析・動作分析	
3	呼吸の運動学	講義 呼吸器系の機能解剖と運動生理		運動学	
4	呼吸の運動学	講義 胸郭と腹部の運動学		総論 四肢と体幹の運動	
5	循環の運動学	講義 循環器系の機能解剖と運動生理		運動学	
6	循環の運動学	講義 運動と心拍出量		総論	
7	関節可動域運動、 矯正・伸張運動	講義 関節の構造，関節運動，関節可動域障害		} 理学療法の基礎理論 関節可動域運動の 理論 運動療法 理論と基本技術	
8	関節可動域運動、 矯正・伸張運動	講義 関節の構造，関節運動，関節可動域障害			
9	関節可動域運動、 矯正・伸張運動	実習			
10	関節可動域運動、 矯正・伸張運動	実習			
11	筋力増強， 筋持久力増大運動	講義 筋力、筋持久力、筋力低下		} 理学療法の基礎理論 神経・筋機能の理論 運動療法 理論と基本技術	
12	筋力増強， 筋持久力増大運動	講義 筋力、筋持久力、筋力低下			
13	筋力増強， 筋持久力増大運動	実習			
14	筋力増強， 筋持久力増大運動	実習			
15	協調性運動	講義 協調性とは、協調性障害		} 理学療法の基礎理論 運動制御・運動学習 の理論 運動療法 理論と基本技術	
16	協調性運動	実習			
17	起居移動動作	実習		} 運動療法 理論と基本技術	
18	起居移動動作	実習			
19	起居移動動作	実習			
20	起居移動動作	実習			
21	実技試験				
22	実技試験				

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
23	高齢者の運動療法	講義 高齢者の運動の特徴	運動療法 保健・福祉領域の 理学療法 } 運動療法 理論と基本技術 } リハビリテーション 医学 機能障害の病態生理 と回復
24	高齢者の運動療法	講義 高齢者の運動療法	
25	神経生理学的アプローチ	概説	
26	神経生理学的アプローチ	概説	
27	組織の病態生理と修復	講義 骨、筋、靭帯の病態生理と修復	
28	組織の病態生理と修復	講義 末梢神経、中枢神経の病態生理と修復	
29	筆記試験		
30	筆記試験		
	テキスト、参考書	テキスト：「基礎運動学」中村隆一他(医歯薬出版) 「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂他編(協同医書) 「理学療法ハンドブック第2巻」細田多穂他編(協同医書) 「標準理学療法学 運動療法学 総論」吉尾雅春編(医学書院) 参考書：「カパンティ間接の生理学3(体幹・脊柱)」荻島秀男監訳(医歯薬出版) 「運動療法学」千住秀明他編(神陵文庫) 「有酸素運動のトレーナビリティ」芳賀脩光(真興交易医書出版部)	

授業科目名		物理療法学	担当教員	目 黒 力	
対象学生		1 学 年	学 期	後 期	
単位 (コマ数)		2 単位 (15 コマ)	必 修	講義室	
回	講義題目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	物理療法学総論	物理療法の定義・歴史・方法		理学療法治療学	
2	温熱生理学	温熱生理学の基礎、熱の伝達方法、計算問題解法		2. 物理療法	
3	温熱療法	ホットパック療法、パラフィン療法		A 理論と基本技術	
4	温熱療法	超短波療法、極超短波療法		a 温熱・寒冷療法	
5	超音波療法	超音波療法、音波の特徴、生体応用		b 電気刺激療法	
6	寒冷療法	アイスパック、クリッカー、極低温療法		c 電磁波療法	
7	光線療法	紫外線療法、照射量テスト		d 光線療法	
8	レーザー光線療法	レーザー光線療法		e 超音波療法	
9	電気生理学	電気生理学の基礎、S-D 曲線		f 水治療法	
10	電気刺激療法	経皮的電気療法、干渉低周波療法、低周波電気療法		g 牽引療法	
11	電気刺激療法	機能的電気刺激、バイオフィードバック療法		1. 運動療法	
12	牽引療法	牽引療法の種類、頸椎牽引、腰椎牽引		A 理論と基本技術	
13	水治療法	渦流浴、気泡浴、ハバードタンク、水中運動療法		m マッサージ	
14	マッサージ療法	マッサージ療法の手技、方法		K バイオフィードバック療法	
15	疾患別プログラム				
テキスト、参考書		テキスト：「物理療法マニュアル」 嶋田智明他著(医歯薬出版) 参考書：「標準物理療法学 物理療法学」 網本 和編(医学書院)			

授 業 科 目 名		物 理 療 法 実 習	担 当 教 員	目 黒 力	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		各班に分かれ以下の実習を行う。進行は各班ごとに異なる 温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		理学療法治療学	
2		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		2. 物理療法	
3		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		A 理論と基本技術	
4		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		a 温熱・寒冷療法	
5		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		b 電気刺激療法	
6		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		c 電磁波療法	
7		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等		d 光線療法	
8		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等 各班毎にテーマ別課題を与えそれに対する実習・実験を行う		e 超音波療法	
9		グループ研究		f 水治療法	
10		グループ研究		g 牽引療法	
11		グループ研究		1. 運動療法	
12		グループ研究		A 理論と基本技術	
13		グループ研究		m マッサージ	
14		研究発表会		K バイオフィードバック	
15		研究発表会		療法	
テキスト、参考書					

授 業 科 目 名		神 経 系 疾 患 理 学 療 法	担 当 教 員	富 田 浩	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講 義 室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		脳血管障害・頭部外傷の理学療法		障害別評価法 障害領域の評価法 運動療法 障害領域の運動療法	
2		脳血管障害・頭部外傷の理学療法			
3		脳血管障害・頭部外傷の理学療法			
4		パーキンソニズムの理学療法			
5		失調症の理学療法			
6		脊髄小脳変性症の理学療法			
7		筋萎縮性側索硬化症の理学療法			
8		多発性硬化症の理学療法			
9		ギラン・バレー症候群の理学療法			
10		脳性麻痺の理学療法			
11		脳性麻痺の理学療法			
12		進行性筋ジストロフィーの理学療法			
13		その他の小児疾患の理学療法			
14		実技試験			
15		筆記試験			
テキスト、参考書		テキスト：「理学療法ハンドブック第2巻」細田多穂他編（協同医書） 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂他編（協同医書） 「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編（医学書院） 参考書：「運動療法学」山本総勝他編（神陵文庫）			

授 業 科 目 名		神経系疾患理学療法実習	担 当 教 員	柴 田 雅 祥	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	通 年	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		神経系疾患理学療法評価法概説(1)		障害別評価法	
2		神経系疾患理学療法評価法概説(2)		障害領域の評価法	
3		神経系疾患理学療法概説(1)		運動療法	
4		神経系疾患理学療法概説(2)		障害領域の運動療法	
5		脳血管障害の理学療法評価(1)			
6		脳血管障害の理学療法評価(2)			
7		脳血管障害の理学療法(1)			
8		脳血管障害の理学療法(2)			
9		脳血管障害の理学療法(3)			
10		脳血管障害の理学療法(4)			
11		パーキンソン病(パーキンソニズム)の理学療法評価			
12		パーキンソン病(パーキンソニズム)の理学療法			
13		失調症(脊髄小脳変性症等)の理学療法評価			
14		失調症(脊髄小脳変性症等)の理学療法			
15		中間試験			
16		多発性硬化症の理学療法評価			
17		多発性硬化症の理学療法			
18		多発性神経炎の理学療法評価			
19		多発性神経炎の理学療法			
20		重症筋無力症の理学療法評価			
21		重症筋無力症の理学療法			
22		筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価			
23		筋萎縮性側索硬化症の理学療法			
24		進行性筋ジストロフィー症の理学療法評価			
25		進行性筋ジストロフィー症の理学療法			
26		脳性麻痺の理学療法評価			
27		脳性麻痺の理学療法(1)			
28		脳性麻痺の理学療法(2)			
29		脳性麻痺の理学療法(3)			
30		最終試験			
テキスト、参考書		<p>テキスト:「脳卒中理学療法テキスト」潮見泰蔵編(アイベック) 「神経疾患のリハビリテーション」平井俊策他編(南山堂) 「理学療法ハンドブック第1巻~第3巻」細田多穂他編(協同医書) 「ベッドサイドの神経の診かた」斉藤佳雄他著(南山堂) 「理学療法評価学」松澤 正著(金原出版)</p> <p>参考書 :「脳卒中最前線」福井囿彦他編(医歯薬出版) 「脳卒中の運動訓練プログラム」横山巖他編(医学書院)</p> <p>(テキスト、参考書については追加の可能性あり)</p>			

授 業 科 目 名		運 動 系 疾 患 理 学 療 法	担 当 教 員	富 田 浩	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		骨折・脱臼の理学療法		障害別評価法 障害領域の評価法 運動療法 障害領域の運動療法	
2		靭帯損傷・半月板損傷・腱断裂の理学療法			
3		末梢神経損傷の理学療法			
4		頸肩腕症候群・五十肩の理学療法			
5		腰痛の理学療法			
6		側彎症の理学療法			
7		変形性関節症の理学療法			
8		脊髄損傷の理学療法			
9		脊髄損傷の理学療法			
10		熱傷の理学療法			
11		慢性関節リウマチの理学療法			
12		慢性関節リウマチの理学療法			
13		関節モビライゼーション			
14		関節モビライゼーション			
15		試験			
テキスト、参考書		テキスト：「理学療法ハンドブック第2巻」細田多穂他編（協同医書） 「理学療法ハンドブック第3巻」細田多穂他編（協同医書） 「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編（医学書院） 参考書：「運動療法学」山本総勝他編（神陵文庫）			

授 業 科 目 名		運動系疾患理学療法実習	担 当 教 員	富 田 和 秀	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	オリエンテーション	本コースの紹介 治療の原則・概念を理解する		. 理学療法評価学	
2	肩甲帯関節の評価・	肩甲帯関節の評価		A. 障害領域の評価法	
3	治療	肩関節障害の代表的疾患の理学療法		(a. 整形外科領域)	
4	肘・手関節の評価・	肘・手関節の評価			
5	治療	肘・手関節障害の代表的疾患の理学療法		. 理学療法治療学	
6	股関節の評価・治療	股関節の評価		A. 障害領域の運動療法	
7		股関節障害の代表的疾患の理学療法		(b. 整形外科領域)	
8	膝関節の評価・治療	膝関節の評価			
9		膝関節の代表疾患の理学療法			
10	足部・足関節障害の	下腿・足関節・足部の評価			
11	評価・治療	足部・足関節の代表的疾患の理学療法			
12	脊柱・骨盤関節の	脊柱・骨盤関節の評価			
13	評価・治療	脊柱・骨盤関節の評価			
14		脊柱障害の代表的疾患の理学療法			
15	単位認定試験	実技・口頭試問			
テキスト、参考書		<p>テキスト：「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編（医学書院） 「理学療法ハンドブック」細田多穂、柳澤 健編集（協同医書出版）</p> <p>参考書：「運動器疾患の評価」岩倉博光他監訳（医歯薬出版） 「整形外科理学療法の理論と技術」山崎 勉編集（メジカルビュー社）</p>			

授 業 科 目 名	呼吸循環系疾患理学療法	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション	内部障害（呼吸・循環・代謝系疾患）理学療法概論	理学療法評価学 理学療法治療学
2	呼吸・循環の ダイナミズム	生命活動、運動に関する呼吸循環のダイナミズム	
3	呼吸器系理学療法 における評価	呼吸器疾患・障害の病態 評価の概要 理学的検査 呼吸機能検査（肺機能・呼吸筋・運動負荷試験） 血液ガス 画像診断	
4	呼吸器系理学療法 の基本手技	気管・気管支浄化法（drainage） 呼吸運動の制御法（breathing pattern control） 呼吸筋 運動療法	
5	呼吸器系理学療法 の基本手技	各種器具を使用した呼吸器理学療法 患者家族教育 社会心理的影響 機器の制御	
6	呼吸器系理学療法 プロトコール	呼吸器内科系 胸部・腹部外科系 脳神経外科、神経疾患系 集中監視治療 在宅酸素療法 ガイドライン	
7	中間試験	呼吸器系理学療法に関する試験	
8	呼吸器系理学療法 の意義	安静臥床 運動の効果と問題点 急速な身体運動に対する心血管反応（正常と異常）	
9	運動生理学	エネルギー代謝 酸素摂取能力 身体活動によるエネルギー消費 持久性トレーニングの生理的效果 （正常・冠動脈性疾患）	
10	呼吸器系理学療法 における評価	評価の概要 理学療法評価	
11	心電図	刺激伝導系 標準心電図 心電図の解釈	
12	運動負荷試験	虚血性心疾患 リズムの不整	
13	心筋梗塞	心筋梗塞急性期の理学療法 心筋梗塞回復期の理学療法 心筋梗塞慢性期の理学療法 ガイドライン	
14	中間試験	循環器理学療法に関する試験	

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
15	単位認定試験	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> * 頻回に小テストを実施予定 * 代謝障害,他は実習の時間で行う予定 	
	テキスト、参考書	<p>テキスト(必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「図説呼吸理学療法」芳賀 敏彦他編(メディカル菱出版) 「狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション」木全心一編著(南江堂) 「心臓リハビリテーション」日本心臓リハビリテーション学会監訳 (日本心臓リハビリテーション学会) <p>サブテキスト(あったほうがよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「最も早くマスターできる心電図独習テキスト」半田俊之介他監訳 (総合医学社) 「呼吸理学療法学」萩原新八郎(医学書院) 「呼吸器 NOW10.運動指導・運動療法」村上正博担編(南江堂) <p>参考書(自由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「呼吸リハビリテーション入門」千住秀明(神陵文庫) 「呼吸リハビリテーション・プログラムのガイドライン」 日本呼吸管理学会監訳(ライフサイエンス出版) 「理学療法 Mook4、呼吸理学療法」宮川哲夫他編(三輪書店) 「呼吸器疾患の運動療法と運動負荷テスト」谷本晋一(克誠堂出版) 	

授 業 科 目 名	呼吸循環系疾患理学療法実習	担 当 教 員	富 田 和 秀
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション	内部障害理学療法概論・実習概論（担当江口）	理学療法評価学 理学療法治療学
2	代謝系疾患理学療法	代謝系疾患理学療法概論（担当江口）	
3	呼吸・循環系理学療法のプロトコール	呼吸器内科系・外科系・心筋梗塞（急性期・回復期・慢性期）・ACバイパス術後・PTCA術後（担当富田）	
4	呼吸・循環の 理学的所見	理学的所見の取り方（問診・視診・触診・打診法） （担当富田）	
5	呼吸・循環の 理学的所見	理学的所見の取り方（聴診法 ：呼吸音・気管支音、心音、心雑音）（担当富田）	
6	呼吸・循環系理学療法 の運動機能評価	歩行能力テスト（シャトルウォーキング・6分間歩行など） （担当富田）	
7	呼吸・循環系理学療法 のADL評価	ADL・QOL評価の実際（担当富田）	
8	心電図実習	心電図その1測定（安静・運動負荷）（担当富田）	
9	心電図実習	心電図その2読波（担当富田）	
10	リスク管理	呼吸・循環系理学療法におけるリスク管理 （担当富田）	
11	呼吸器系理学療法 の基本手技	呼吸練習・呼吸介助法・排痰法（担当富田）	
12	運動負荷試験	運動負荷試験の実際（担当富田）	
13	CCU・ICUにおける 理学療法の実際	CCU・ICUにおける理学療法の実際（高橋哲也）	
14	単位認定試験	実技・口頭試問（担当富田）	
	その他	心肺蘇生法を含む救急法（日本赤十字社）	
	テキスト、参考書	<p>テキスト(必要)</p> <p>「最も早くマスターできる心電図独習テキスト」 半田俊之介他監訳(総合医学社)</p> <p>「内部障害のリハビリテーション」佐藤徳太郎編(医歯薬出版)</p> <p>「学療法 Mook4、呼吸理学療法」宮川哲夫他編(三輪書店)</p> <p>他に日本赤十字社救急法教材一式</p> <p>サブテキスト(あったほうがよい)</p> <p>「呼吸リハビリテーション・プログラムのガイドライン」 呼吸管理学会監訳(ライフサイエンス出版)</p> <p>「心臓リハビリテーション」日本心臓リハビリテーション学会監訳 (日本心臓リハビリテーション学会)</p> <p>参考書(自由)</p> <p>「心臓病の運動療法」斉藤宗靖(中外医学社)</p> <p>「呼吸理学療法学」萩原新八郎(医学書院)</p>	

授 業 科 目 名		義 肢 装 具 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦	
対 象 学 生		2 学 年	学 期	前 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	コースオリエンテーション	装具学概論		理学療法評価学 理学療法治療学	
2	下肢装具	短下肢装具			
3	下肢装具	短下肢装具			
4	下肢装具	膝装具			
5	下肢装具	長下肢装具			
6	下肢装具	長下肢装具			
7	下肢装具	靴型装具・足底装具・特殊整形靴			
8	体幹装具	体幹装具			
9	体幹装具	体幹装具			
10	体幹装具	体幹装具			
11	上肢装具	上肢装具			
12	上肢装具	上肢装具			
13	上肢装具	手の装具・手指装具			
14	車椅子 ・座位保持装置	車椅子と座位保持装置			
15	単位認定試験				
テキスト、参考書		<p>テキスト(必要)</p> <p>「義肢装具学(第2版)」川村次郎、竹内孝仁(医学書院)</p> <p>「下肢切断の理学療法(第3版)」細田多穂編(医歯薬出版)</p> <p>サブテキスト(あったほうがよい)</p> <p>「理学療法ハンドブック」細田多穂、柳沢 健編(協同医書出版)</p> <p>「車イスの選び方」日本リハ工学協会訳(医学書院)</p> <p>参考書(自由)</p> <p>「義肢装具のチェックポイント」日整会、日リハ医学会編(医学書院)</p> <p>「こどものリハビリテーション医学」陣内一保他編(医学書院)</p> <p>「リハビリテーション技術全書(第2版)」服部一郎(医学書院)</p> <p>「装具学」日本義肢装具学会編(医歯薬出版)</p>			

授 業 科 目 名		義 肢 装 具 学 実 習	担 当 教 員	平 井 正 利
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
1	コースオリエンテーション	装具学実習概論・切断の理学療法 (江口)		理学療法評価学 理学療法治療学
2	切断と義肢	切断の理学療法 (江口)		
3	切断と義肢	切断と義肢概論 (平井)		
4	切断と義肢	切断と義肢の実際 力学,義肢とパーツ (平井)		
5	切断と義肢	切断と義肢の実際 適合,スティックアライメント 1B/K (平井)		
6	切断と義肢	切断と義肢の実際 適合,スティックアライメント 1A/K (平井)		
7	切断と義肢	切断と義肢の実際 ダイミックアライメントと歩行 (平井)		
8	切断と義肢	切断と義肢の実際 ダイミックアライメントと歩行 2 (平井)		
9	切断と義肢	切断と義肢の実際 ギプスソケット作成 (平井)		
10	切断と義肢	切断と義肢の実際 ギプスソケット作成 (平井)		
11	切断と義肢	切断と義肢の実際 義手 1 (平井)		
12	切断と義肢	切断と義肢の実際 義手 2 (平井)		
13	車椅子	車椅子実習 (江口・内田和行)		
14	座位保持装置	座位保持装置実習 (江口・森田寅)		
15	単位認定試験	義肢に関する知識の口頭試問, ペンアライメント・ダイミックアライメント(歩行分析とアライメント調整) の実技試験 (平井)		
テキスト、参考書		テキスト(必要) 「義肢学」日本義肢装具学会編(医歯薬出版) 「義肢装具学(第2版)」川村次郎、竹内孝仁(医学書院) 「下肢切断の理学療法(第3版)」細田多穂編(医歯薬出版)		

授 業 科 目 名	日 常 生 活 活 動 学	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 生	2 学 年	学 期	前 期
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		日常生活活動の概要	日常生活活動 (ADL) 概念と分類 基本技術と適応
2		日常生活活動の評価(1)	
3		日常生活活動の評価(2)	
4		起居動作(1)	
5		起居動作(2)	
6		歩行補助具	
7		移動・歩行動作	
8		トランスファー	
9		車椅子	
10		食事	
11		排泄	
12		入浴	
13		更衣・整容	
14		コミュニケーション	
15		試験	
	テキスト、参考書	テキスト: 「日常生活活動(ADL)」橋本 隆他編集(神陵文庫) 「新版 姿勢と動作」斉藤 宏他著(メヂカルフレンド社) 参考書 : 「移動補助具」松原勝美著(金原出版) 「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集(医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	日常生活活動学実習	担 当 教 員	柴 田 雅 祥
対 象 学 生	2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		日常生活活動の評価	日常生活活動 (ADL) 概念と分類 基本技術と適応
2		脳血管障害(1)	
3		脳血管障害(2)	
4		脳血管障害(3)	
5		脊髄損傷(1)	
6		脊髄損傷(2)	
7		慢性関節リウマチ	
8		切断	
9		神経筋疾患(1)	
10		神経筋疾患(2)	
11		脳性麻痺・重症心身障害	
12		呼吸器・循環器疾患	
13		骨関節疾患	
14		高齢者	
15		試験	
	テキスト、参考書	テキスト:「日常生活活動(ADL)」橋本 隆他編集(神陵文庫) 「新版 姿勢と動作」斉藤 宏他著(メヂカルフレンド社) 参考書 :「四肢麻痺と対麻痺」萩原新八郎訳(医学書院) 「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集(医歯薬出版)	

授 業 科 目 名		地 域 理 学 療 法 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦	
対 象 学 生		3 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	コースオリエンテーション	地域理学療法概論		地域理学療法	
2	.総論	臨床運動学とは.地域理学療法実践の歴史 地域理学療法の機能		理念 CBR ノーマライゼーション	
3	.概説	地域理学療法の背景		システム	
4	.概説	病院・医療の变革.診療報酬と地域理学療法		社会資源	
5	.概説	社会資源の活用と地域理学療法 (目黒 力)		システム 社会資源	
6	.概説	保健医療福祉政策の動向・老人保健法・新ゴールドプラン・介護保険と地域理学療法 (秋山純和)		システム 制度と関連法規	
7	.概説	地域理学療法の展開 1 病院・老人保健施設・ 小児施設・養護学校		保健医療福祉における 理学療法 病院・診療所との関 わり、小児の在宅・ 通園、訪問リハ	
8	.概説	地域理学療法の展開 2 在宅訪問(港区・那須町) 小児在宅		保健所・保健センター	
9	.概説	地域理学療法の展開 4 地域理学療法の実践 :保健所 (森倉三男)		市町村との関わり 都市型地域リハ	
10	.概説	地域理学療法の展開 5 地域理学療法の実践 :都市型 (伊藤隆夫)		市町村との関わり 離島・僻地	
11	.概説	地域理学療法の展開 6 地域理学療法の実践 :離 島 (今泉 寛)		全領域	
12	.特講	今後のリハビリテーション医療と地域理学療法 (石田 暉)			
13	.演習	グループ演習(地域における連携)			
14	.演習	グループ演習(地域における連携)			
15	単位認定試験				
テキスト、参考書		テキスト:「地域理学療法」伊藤日出男、香川幸次郎(医歯薬出版) サブテキスト:「理学療法士、作業療法士のための地域リハビリテーション入門」 小林恵子、森倉三男			

授 業 科 目 名		生 活 環 境 論	担 当 教 員	目 黒	力
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	生活と環境と障害者	キーワード：人間と環境、日本人、文化、障害者		、地域理学療法学	
2	QOL	「生活の質」の定義と考え方		2.生活環境整備	
3	経済的環境	障害者を支える経済的援助制度		A バリアフリー環境	
4	行政・制度的環境	法的・制度の課題と実際		a . 住環境	
5	居住環境	建築学的基礎		b . 住宅改造	
6	居住環境	図面の読み方と書き方、障害者住宅		B リハビリテーション関	
7	居住環境	CAD 演習		連機器	
8	福祉・リハビリテーション機器	リハビリテーション関連機器		a . 福祉用具	
9	生活用具・機器開発研究	機器の開発と現状		b . コミュニケーション機器	
10	都市交通環境	都市と生活者、都市計画の基礎		c . スポーツ・レクレーション機器	
11	都市交通環境	バリアフリーのまちづくり、福祉のまちづくり			
12	都市交通環境演習	インスタントシニア、車いすなどを用いてすんでいる			
13	都市交通環境演習	まちをチェックする			
14	総論	学んだことを生かして、理学療法士の立場から			
15	予備				
テキスト、参考書		テキスト：「生活環境論」木村哲彦監(医歯薬出版) プリント			

授 業 科 目 名		スポーツ障害理学療法学	担 当 教 員	村 井 貞 夫	
対 象 学 生		3 学 年	学 期	後 期 集 中	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1 ~ 15		<p>第1章アスレチック・リハビリテーション</p> <p>1.アスレチック・リハビリテーションの定義</p> <p>2.アスレチック・リハビリテーションの沿革</p> <p>3.アスレチック・リハビリテーションの分類</p> <p> a アスレチック・リハビリテーションの運動療法</p> <p> b アスレチック・リハビリテーションの物理療法</p> <p> 温熱療法、寒冷療法</p> <p>4.アスレチック・リハビリテーションの治療</p> <p> 頭部外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 頸部外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 肩関節外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 上肢外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 体幹外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 骨盤外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 下肢部外傷・障害リハビリテーション</p> <p> a 大腿部 b 膝関節 c 下腿部 e 足関節</p> <p>アスレチック・リハビリテーションの実技</p> <p>第2章アスレチック・マッサージ</p> <p>1.アスレチック・マッサージの定義</p> <p>2.アスレチック・マッサージの沿革</p> <p>3.アスレチック・マッサージの分類</p> <p>4.アスレチック・マッサージの適応と禁忌</p> <p>5.施術の注意</p> <p>6.アスレチック・マッサージの実技</p> <p> 手技の分類とその方法</p> <p> 軽擦法 揉捏法 圧迫法 叩打法</p> <p> 振戦法 伸展法 その他</p> <p>第3章アスレチック・テーピング</p> <p>1.アスレチック・テーピングの定義</p> <p>2.アスレチック・テーピングの分類</p> <p>3.実技・目的</p> <p> 応急処置 予防 再発予防</p> <p>脊椎損傷の理学療法</p> <p> はじめに</p> <p> 定義</p> <p> ベッドサイド理学療法</p> <p> マット運動</p> <p> 水治療法</p> <p> 車椅子練習</p> <p> 歩行</p> <p>ADL 練習</p>			
テキスト、参考書					

授 業 科 目 名		在 宅 ケ ア 理 学 療 法 学	担 当 教 員	平 石 恒 男	
対 象 学 生		3 学 年	学 期	後 期	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		地域理学療法概念			
2		保健、医療、福祉の動向			
3		老人保健法による機能訓練事業			
4		介護保険と理学療法			
5		訪問リハビリテーション			
6		通所リハビリテーション			
7		高齢者の理学療法評価			
8		家屋改造（実例を通して）			
9		車椅子の選択			
10		歩行補助具の選択（杖、歩行器）			
11		障害者用自動車			
12		福祉用具の選択			
13		在宅リハ見学			
14		在宅リハ見学			
15		在宅リハ見学			
テキスト、参考書					

授業科目名		言語治療学	担当教員	谷 哲 夫	
対象学生		3 学年	学期	後 期	
単位 (コマ数)		2 単位 (15 コマ)	選 択	講義室	
回	講義題目	教 科 内 容		国家試験出題基準	
		* 本年度開講せず			
テキスト、参考書					

授業科目名	看護学	担当教員	高木タカ子
対象学生	3学年	学期	後期
単位(コマ数)	2単位(15コマ)	選択	講義室
回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
1	生命と看護 「いのち」と看護	「生命」の夜明け 生命を考える意義 人類の出現 レポート課題「人間とは」	
2	個体と環境の関わり	生態系のなかの人間 生きていくことの3つの特性 恒常性維持の機構 適応のシステム 人間であるために必要な環境 a. 意識ある生命現象、意識のない生命現象 b. 「生きていく」状態の3段階 看護の原点とは レポート課題「健康とは」	
3	健康成立の条件	健康という現象 健康とは 求められる健康観 クオリティ・オブ・ライフ 健康成立の条件	
4	健康と看護	セルフ・ケアと看護 健康と看護ケア 健康障害と看護ケア	
5	看護の軌跡	医療の中で必要とされた職業看護 a. 職業看護の成り立ち b. 看護独自の役割の模索 c. ブラウン報告	
6	現代看護の理論領域	看護観とその流れ ナイチンゲールの功績 人間に内在するものについての理論 人間関係理論 システム理論 ケア理論	
7	看護の概念	看護ケアの本質 医療の中で正常性を求め維持する看護ケア a. 看護ケアに必要な患者の健康部分に視点を置いた働きかけ b. 看護ケアの日常性と安全・安楽の確保 c. 看護ケアにおける「手」と「言葉」そして「眼」 d. 看護の統合は科学である	
8		専門職としての看護の定義	
9	看護の対象と看護の機能	全体として人間 看護の方向 人間の生命学的基盤 人間と欲求 人間形成における社会的・文化的条件 疾患や身体的障害の人間の意味の理解	
10			

回	講義題目	教科内容	国家試験出題基準
11	保健医療のなかの看護	<p>人間の生命維持に関わる生活機能の日常性と看護ケア</p> <p>a.呼吸 b.循環 c.体温調節 d.栄養と食事 e.排泄 f.運動と休息・睡眠 g.清潔</p> <p>人間の内面的理解とそれに基づく看護ケア 統合的存在としての人間の看護 ライフサイクルに応じた看護の機能</p> <p>保健医療の概念と看護 総合保健医療と総合看護 保健医療活動とこれからの展望</p> <p>a.健康の保持・増進 b.健康障害と回復 c.プライマリ・ヘルス・ケアと看護 d.高齢化社会と保健活動 e.リハビリテーションと看護</p>	
12	チーム医療と看護管理	<p>チーム医療の中の看護活動</p> <p>a.チーム医療の必要性 b.チーム医療における看護師の位置づけ</p> <p>チーム医療における看護師の役割</p>	
13	看護の実践	<p>看護の目標</p> <p>a.よく観、よく聴き、よくわかること b.看護技術 c.看護過程</p>	
14	骨盤底筋（演習）	<p>骨盤底筋の診断 骨盤底筋の運動と指導</p>	
15	まとめ	まとめ	
テキスト、参考書		<p>テキスト：「新版 看護学全書 12 基礎看護学 看護学概論」 (メヂカルフレンド社)</p>	

授 業 科 目 名		福 祉 機 器 概 論	担 当 教 員	目 黒	力
対 象 学 生		3	学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選	択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1	福祉機器概論とは	歴史、定義、関連領域との関わり、開発		地域理学療法学 2.生活環境整備 B.リハビリテーション関連機器 a.福祉用具 b.コミュニケーション機器 c.スポーツ・レクリエーション機器	
2	工学的基礎	工学とは、とらえ方、考え方			
3	工学的基礎	数量的解析、実験手法、統計学的解析			
4	姿勢保持装置	シーティング概要			
5	車いす	最新車いす事情と解析手法			
6	昇降装置・リフト	ホームエレベーターなど			
7	福祉車両	メーカーの取り組み、トピックス			
8	視覚・聴覚障害者に対する福祉機器	音声案内システム、白杖等			
9	コミュニケーション関連機器	トーキングエイドなど			
10	環境制御装置・介護ベッド	在宅障害者を含むベッド周辺の福祉機器			
12	ハウスアダプテーション	住宅の改造とその手法			
12	自助具				
13	ネットワークとPC	パーソナルコンピューター、インターネット			
14	福祉用具産業と関連法規	介護保険法、交付適応など			
15					
テキスト、参考書		テキスト:「バリアフリーのための福祉技術入門」足立芳寛監(オーム社)			

授 業 科 目 名		運 動 療 法 特 論	担 当 教 員	柳 澤 健
対 象 学 生		2 学 年	学 期	後 期
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準
		固有受容性神経筋促通法 (PNF)		
1		PNF の理論 1		
2		PNF の理論 2		
3		基本パターン 1 - 上肢 -		
4		基本パターン 2 - 上肢 -		
5		基本パターン 3 - 上肢 -		
6		基本パターン 4 - 下肢 -		
7		基本パターン 5 - 下肢 -		
8		基本パターン 6 - 下肢 -		
9		特殊テクニック		
10		肩甲骨・骨盤のパターン		
11		体幹のパターン		
12		歩行		
13		応用 1		
14		応用 2		
15		実技テスト		
テキスト、参考書		教科書：「PNF マニュアル」柳澤 健他著(南江堂) 参考書：「理学療法ハンドブック」細田多穂他編(協同医書)		